

# 行政視察報告書

令和 1年 7月 29日

長浜市議会議員 松本 長治 様

長浜市議会議員 佐金 利幸



私が出席した次の行政視察の結果について報告します。

## 記

1. 視察等名 令和元年度上期 会派「政友会」行政課題及び先進地議員研修
2. 視察期間 令和元年7月22日（月）～7月24日（水）
3. 視察場所 青森県上北郡六ヶ所村 六ヶ所村原子燃料サイクル施設  
青森県十和田湖 十和田湖観光交流センター  
岩手県北上市役所 都市整備部都市計画課  
宮城県大崎市役所 市民協働推進部まちづくり推進課
4. 視察目的
  - ◆高レベル放射性廃棄物の中間貯蔵施設の現状について
  - ◆湖を核とした観光資源の在り方について
  - ◆北上市の地域公共交通の取り組みについて
  - ◆大崎市の地域自治・市民協働の取り組みについて

## 5. 調査内容感想等

### ・視察の趣旨

東日本大震災（2011. 3. 11）から丸8年が過ぎ、福島第一原発6基、第二原発4期の廃炉計画が発表された。廃炉終了まで40年といわれ、その間に廃棄物貯蔵施設も考えなくては、廃炉終了とは言えない。会派では以前から原発廃炉に向けた作業で、低レベル、高レベルの放射性廃棄物が発生する事に大変関心と未来に渡る憂い感じている。そういった中で、今回六ヶ所村の視察に参りました。

十和田湖は琵琶湖以上に観光地として名を馳せている。現地を視察し今後の観光への大きな足掛かりを見つきたい。

本市と似通った北上市（9.2万人）、大崎市（13.1万人）へ視察し、地域公共交通、まちづくり協議会の役割を聞きます。なお両市とも平成の合併で市が大きくなっています。

・視察の内容

3日間で東北3県（青森、岩手、宮城）を回るため、かなりスケジュール的には厳しいものでした。7/22 昼2時に下北半島の中間にある日本原子燃料サイクル施設に到着しました。長浜は梅雨明け前で蒸し暑いはずなのに、ここはやませ（山背）と言われる東よりの風で20度くらいです。とてつもなく広い敷地に①ウラン濃縮工場（1992年操業開始）、②低レベル放射性廃棄物埋設センター（1992年操業開始）、③高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター（当センターは30年～50年の中間貯蔵）（1995年操業開始）、④使用済燃料受入貯蔵施設（1999年事業開始）、⑤ウラン再処理工場（2021年竣工予定）、⑥MOX燃料工場（2022年竣工予定）と次々に核燃料の工場が建設されているのを目にしました。ここで働いている従業員は2,818名でそのうち60%が青森県出身であり、企業の少ない青森県において六ヶ所村は六つの村があり人口1万人しか居ない場所にあつて日本原燃の存在は大きいものがあります。国際原子力機関（IAEA）の査察を受け、東日本震災以後の新規制基準に適合するための事業変更許可申請を取っていることを聞きました。これだけ大規模な施設、その警備を考えると電力の費用対効果は原子力以外の方が安いのではないかと思いましたが、火力、水力、再生可能エネルギーより原子力が安いと説明があつた。しかし、高レベル放射性廃棄物最終処分場が決まっていない現状では早急に国家的課題としてこの問題を解決する必要があります。

翌 23 日、レンタカーにて十和田湖へ向かった。小学校の時の教科書に高村光太郎の「乙女の像」を思いながら現地に赴きました。社団法人・十和田湖奥入瀬観光機構が指定管理を受けている十和田湖観光交流センターの佐藤晃一さんに説明を受けた。十和田湖には大きな観光船が停泊していたが何かおかしいと思いながら説明を受けたが、近隣の宿泊施設の 7 割が閉店していて遊覧船は最高のもで年 80 万人が乗船したが今は 5 万人しか乗船客はありません。一番の課題は「空き家が多くて」そのため、環境省に陳情し近々に十和田湖観光ホテルの廃屋を撤去してもらい運びになった。遊覧船も以前は 8 隻あったが十和田湖観光汽船の 4 隻の廃止で今は 4 隻しかない。十和田湖は国立公園なので勝手に触れないし、許可がなかなか下りないという問題点があります。最近カヌーをプロジェクトの指定を受け若い人が 3 人で始めた。観光客が減りスポーツツーリズムでマラソン、ウォーキング、サイクリング（周囲が 46 Km）を考えているのだがサイクリングは湖岸沿いに道路がなく難しいところもある、花火大会は今年 7/13, 14 に行った、一日 1200 発で二日間 2800 人の観光客があった。インバウンドの影響で多い時十和田湖荘 300 室が台湾人で埋まったこともある。交通の便はバスとマイカーしかなく、青森側からくる人は八甲田山の麓を通り、奥入瀬溪流を見て U ターンをしてしまう、どちらかという、八戸からくる観光客が多い、冬は積雪が 2~3m あり気温もマイナス 10℃で少ないが、春の桜、夏の清涼、秋の紅葉と観光はあります。佐藤さんの説明を受けて観光客の減は、その周りの施設、人口も変わっていくものを感じた。今更この様に空き家、人が居ない中、ある意味失敗例かなと思う。午後は岩手県北上市役所に参りました。北上市は人口 9.2 万人 面積は 437 km<sup>2</sup>で長浜より少し小さな都市です。人口減少の進む岩手県の中で数少ない人口増の都市です。

商業都市の盛岡市とは対照的に北上市は東北地方有数の流通、工業都市にとりて成長しています。昭和 30 年代までは農業地域であったものが、早い時期から企業誘致に取組み秋田自動車道が開通すると東北道との結節点となり、180 社以上の企業を誘致しました。近年は駅周辺にマンションやホテルが建設されています。平成 3 年に 1 市 1 町 1 村で合併もしました。そのような背景の元「北上市の地域公共交通の取組み 交通網形成計画」を聞きました。本市と同様に公共交通アクションプランを策定していました。北上市では①幹線交通、②拠点間交通、③地域内交通と分けており、①②については路線バスが走っているが、③は乗合タクシーでタクシー会社と契約し要綱に基づいて補助金を出していた。別に「おに丸号」として今年の 4 月より、規制緩和による道路運送法第 78 条に基づく市町村運営有償運送（白ナンバー）がワンボックスカー（定員 10 名）の 2 台で路線 27Km を一日 4 連続運行するものです。料金も 100 円 150 円 200 円 300 円と安く、ただし週に 3 回 月水木しか運転しません。この議会は本市より進んでいて通年議会の採用、タブレット、公共交通の議員提案もしています。

翌 24 日は宮城県へ参りました。大崎市は人口 13.1 万人 面積は 796 km<sup>2</sup> で長浜より少し大きな都市です。平成 18 年 1 市 6 町が合併し現在に至ります。人口は合併後 9 千人以上減少し、このこともよく似ています。ただし地形が南北は 10Km と狭いのですが東西に 80Km もあり、端から端まで車で 2 時間半かかると聞きました。

大崎市のまちづくり「地域自治・市民協働の取組み」の説明を受けた。まちづくり推進課・鈴木輝彦係長は合併後にこの担当になり以来 11 年間この地域自治について始めから関わっていると説明され、役所は 2～3 年で転勤してしまうが、それでは新しい職

員になると又一からのスタートとなり継続性が無くなる、住民自治活動組織の支援、促進に係る方針及び計画の策定をして共通の目的に沿った支援体制で市民に分かりやすいまちづくり、行革を目指している。地域自治組織活性化事業交付金について補助金は使用目的が決まってしまうが、交付金は住民自ら判断し、地域課題の解決に活用できる。交付金のしくみとして、基礎交付金と支援交付金に分け、支援交付金は課題解決のためのステップアップ交付金と個性、資源を活かした事業費のチャレンジ交付金に分けている。支援交付金はいずれも申請制で自ら課題を考え自立性を育むことになり、行政にとっては、無駄な財政支出を回避し、公金が効果的、効率的に使われると説明を受けた。大崎市の地域づくりは人口減少による公共施設（小学校）の統合、空き家の増加、若い人の人材難、役員の重複化、担い手不足、自然災害の対応と安全、快適なまちづくりを目指し、モデル事業として地域提案によるパートナーシップの協定書の締結、地域包括ケアシステムの連動を検討していると説明された。

・行政視察の結果を本市にどのように反映させるか

北上市は企業誘致で成功している一例と感じた。来年4月には東芝のフラッシュメモリー工場がオープンし従業員千人が雇用され、今も毎年微増だが人口が増加していると羨ましい話を聞かされた。白ナンバーの運送事業は本市に可能か勉強する必要がある。運行形態も毎日ではなく週に3回とか4回でも十分。神田の買い物ツアーとよく似ている。

大崎市の支援交付金は合併特例債の40億円を原資にして毎年その金利分3千万円を上乗せ、横出しのイメージで地域自治へ渡していた。